

いったん送ったら 全部は取り消せないのが インターネット



ちょっとした言い間違い、書き間違いなどの失敗は誰にでも起きること。でも、それが故意でなければ、誠意をもってお詫びすることで、真意を伝えたり、やり直したりすること、人間関係を修復することはできる。また、いずれ歳月が経てば忘れてもらえることもある…。これまでのそんな常識が通用しないのが、楽しくて便利なインターネットの世界です。

「閲覧」の正体はデータが「コピー」されること

コピー機で複製された写真はオリジナルよりもボヤけます。また、その後も保存しているだけで色あせてくるなど次第に劣化が進みます。ところが、インターネットで使われているデジタルデータの世界では、完全なコピーを何度でも作ることができ、時間が経っても劣化しません。

インターネット上の写真や動画などの「閲覧」は、実際には手元の機器に「コピーを作成」して表示させています。したがって、閲覧された回数分だけ写真や動画などのデータの数も増え、閲覧した複数の情報機器内に残るということです。



取り消せるのは限られた範囲だけ

そのため、いったん公開した写真や動画などを後から取り消そうと思っても、コピーされたデータが既にあちこちに残っていることがほとんどです。コピーされたデータがインターネット上に公開されればともかく、他の人の情報機器内に保管されている場合には、その行方を把握することすら出来ません。

子供たちは、気軽に写真や動画を公開しています。しかし、そうした「隠れたコピーデータ」が拡散する可能性についても、理解させておく必要があるのです。



指導の要点

子供たちが投稿した内容も「取り消せばよい」と安易に考えてしまう理由の一つに、インターネット上のデータ転送や保管の仕組みについての知識不足が挙げられます。メールやメッセージ、掲示板やブログなどを經由してデータが複製されていく概念を、学齢（発達段階）に合わせて理解させる必要があります。

また、公開の場で第三者の目に触れる可能性だけでなく、いわゆる「リベンジポルノ」など、親しい相手とのやり取りにおいても、いったん送った写真や動画は完全な取り消しが困難であることも意識した指導が求められます。